

コラム 国際基準化への取り組み：非接触型流速計に関する技術の基準化に向けて

非接触型流速計（写真-1）を用いた流量観測手法に関して、国際基準化するための活動が始まりました。ICHARMは、急流及び濁流を伴う日本の河川で同手法を適用するために、これまで多くの河川事務所の協力を得て一貫して開発・検証等の検討を進めてきました。最先端技術を適用した本技術は、効率性、精度確保、コストメリットの上からも重要であり、また日本がISO/TC113の枠組みの中で主導権を握り、同技術を国際基準化することは、我が国の最先端の技術を国際社会に認知させるとともに、今後我が国の技術を国際的に展開していく上でも重要です。

ISO/TC113 (Hydrometry, 流量観測)は、「開水路での流量観測に関する技術」の国際基準化に関する技術部会です。日本の審議団体は（公社）土木学会が担っており、ICHARMは土木学会水工学委員会流量観測技術高度化小委員会委員の代表として出席しています。

ISO/TC113 第28回会議は、2012年5月にスイス国ベルン市において開催され、土木研究所 ICHARMも参加しました。ここでは、過去に議論されて基準化に至らなかった技術報告書（TR）であるISO/TR 24577：非接触型流速計を用いた流量観測手法に関して、スラップビルドを実施することが決定し、再度議論を再開するための報告書を提出することが合意されました。これを受けて日本、イギリス、オランダが技術資料を提出しました。

第29回メキシコ会議が2013年11月にメキシコ国メキシコ市のCONAGUA (National Water Commission)で開催されました。ここでは通常の技術部会における議論の他に、非接触型流速計を用いた流量観測手法に関してワーキンググループ（WG）が開かれ、ICHARMが話題提供をしました（写真-2）。ここでの議論を受けて、日本が主導でTRを作成することが決まりました。その後、ICHARMが日本、イギリス、オランダの知見を合わせて、2015年1月にTRのたたき台を作成しISOの事務局に提出しました。今後、各国から同TRに対する意見が出され、それらを踏まえ成案を得る予定です。また2015年5月には、第30回会議が土木学会（東京・四ッ谷）で開催される予定です。そこでは同TRに関する議論が進められます。

ICHARMにおいては、TRの作成や各会議の議論を通じて、数年後の基準化に向け活動していく予定です。



写真-1 非接触型流速計 計測状況



写真-2 第29回メキシコ会議ワーキンググループ
参加者の集合写真